

【日 時】 令和6年1月31日（水） 15:00～16:30

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】（委 員） 座 長 河渡 正暁  
副座長 井口 智人  
大村 貴之  
丸山 永二  
岩塚 久案子  
大塚 則幸  
坂上 博幸  
黒田 久美子  
池田 新

（有識者） 中部大学 教授 服部 敦

（市） 総合政策部長、市民活動部長、福祉部長、総合政策課長、生涯学習課長、福祉課長、子育て支援課長、都市計画課長、総合政策係長、総合政策係員

【欠席者】（委 員） 荒川 幸雄

#### 【次第】

- 1 開 会
- 2 報告事項
  - (1) 市民意見収集結果
  - (2) サウンディング結果
- 3 協議事項
  - (1) サウンディング結果の整備方針（案）への反映
  - (2) 事業手法
- 4 その他
- 5 閉 会

#### 【議事要旨】

##### 1 開 会

総合政策部長	(あいさつ)
河渡座長	(あいさつ)

## 2 報告事項

### (1) 市民意見収集結果

総合政策課	(資料3、資料4に基づき説明)
大塚委員	資料4の「複合・多機能施設（子育て支援機能）」の項目で、子どもの遊び場としては狭すぎるという意見が多くみられるが、どのような中身を望んでいるのかが分からず漠然としている。 その他においては、詰め込みすぎだという意見も多く、私と同じ意見の方もいるという印象である。
岩塚委員	「複合・多機能施設（子育て支援機能）」に関して、高山らしさを生かした施設を望む意見を頂いている。児童センター、ファミリーサポート施設においても、高山市の資源を活かした遊具など、森や木を感じられるような施設を是非お願いしたい。 観光客も自由に立ち寄りやすい施設という意見について、子どもが遊ぶスペースや中高生が憩うスペースと、観光客が立ち寄るスペースを分けるなど、観光客によって市民が使いづらくならないような対策はあるか。
総合政策課長	子どもの遊び場は、整備方針（案）に記載している内容のとおり、年齢区分に応じて使いやすいようなものを想定している。具体については決まっていないが、ご意見があったように、多世代に使っていただけるものも、1つの考えとして検討する。
黒田委員	(現在の)図書館は、場所が悪いため、複合・多機能施設内に導入されると良いという意見が散見される。 また、現在の高山市には、小・中学生が訪れる場所がないように感じている。乳幼児だけでなく、小・中学生も遊べる場所を作っていただけるとありがたい。
大村委員	外国人を含む観光客が施設を利用することを前提に、観光客の災害時の拠点になるのでは、という意見がある。市民のためにどうあるべきか、災害時にはどうあるべきか、という全く異なる視点がある中で、コンセプトをまとめなければならず、難しいと感じている。観光客にとって駅西地区は、駅に近く、次の行動に移行しやすいため、一時避難所として非常に良い場所と考える。
坂上委員	現在の市民文化会館前の駅側の道路は、途中まで拡幅が進んでいる状況である。南側の道路の拡幅については、今後どのように予定しているのか。
総合政策課長	駅西地区の検討にあたり、施設のみでなくそれらへのアクセスについても考慮しなければならないという中で、道路の拡幅についても議論することとしている。
井口副座長	様々なご意見を頂いている中で、規模感やゾーニング等をどのようにするべきか非常に難しい。また、豪華なものをつくれればよいというわけではなく、将来にわたっての負担についても考えなければならないと感じた。
池田委員	子どもの遊び場の大きさについて意見がみられた。最初に作りこむのではなく、徐々に変化させていくという考え方もあったが、大きさについては後から変更しにくい。 子どもの遊び場に関しては、広く作って、徐々に作りこんでいくという形が良いのではないか。 また、映画館の導入は難しいと思うが、資料4の意見にもあるように、1スクリーンでもあるとないとは違う。是非検討して欲しい。

丸山委員	<p>11月開催の駅西わくわくミーティング、12月開催の中高生ミーティングについて、参加者が意外と少ないという印象を受けた。一方、団体等意見交換では、多様な意見が出ている。</p> <p>図書館については、分館を設けるということは、資料が分散すること、大きなスペースが必要であることから、デメリットも大きい。ネットで予約し、受け取りに行くという図書館利用のパターンもあるため、受け取り・返却用の窓口はあると良い。</p>
市民活動部長	<p>図書館といっても、様々なニーズがある（立ち寄れる場所、静かに過ごせる場所、本を借りる場所等）。フリースペースの設置などで満たされるニーズもかなりあるのではないかと想定している。本を借りる・返すための機能、知識を得るための窓口としての機能については、ある程度必要と考えており、構想や整備方針（案）に掲載している。</p>
福祉部長	<p>子どもの遊び場に関して、屋外の施設（公園など）は、事業が動き始めたところであり、市民の声を聞かせていただいている。一方で、屋内の施設も欲しいという声も届いているため、期待に沿えるように今後動いていく。また、場所は、駅西地区に限らず、検討していく必要があると感じている。</p>

## (2) サウンディング結果

総合政策課	(資料3、資料5に基づき説明)
大塚委員	今回、サウンディングを行った市外事業者は、どのような事業者か。
総合政策課長	東海地方や全国規模で実績のある大手建設業者や開発事業者、運営事業者等である。
丸山委員	<p>事業手法について、DBOが比較的良いという印象を受けた。この手法は、建設業者が運営まで担うということか。</p> <p>また、指定管理者制度とは異なるのか。</p>
総合政策課長	<p>運営は、建設事業者にとっては専門外の業務であり、難しいことが多い。設計事業者、建設事業者、運営に実績のある事業者が1つのチームを組み、役割分担をしながら設計から運営まで携わっていく、というイメージである。</p> <p>実際に「O（運営）」をどのように行うかについては、業務委託や指定管理者制度など、様々な契約パターンがある。</p>
岩塚委員	設計について、施設やサービスの運営を担う主体から、意見を聞く機会はあるか。
総合政策課長	<p>実際に運営を行う団体や、利用する市民の意見を、設計に反映するというやり方は、今後工夫して進めていく予定である。DBOの場合、運営に携わる団体がJV等に入り、意見を十分に反映させられる仕組みであるため、この点でメリットがある。</p>

### 3 協議事項

#### (1) サウンディング結果の整備方針（案）への反映

総合政策課	(資料6に基づき説明)
-------	-------------

#### (2) 事業手法

総合政策課	(資料6、資料7に基づき説明)
-------	-----------------

丸山委員	設計と施工を分けた従来方式のメリットとして、設計事業者が施工管理者となることで第三者による工事の監督・監視が機能するという点があると考えている。設計と建設が同一であれば、工事の監理面が懸念されるが、どう考えているか。
総合政策課長	従来方式でのメリットが、新しい事業手法になると失われるのでは、という懸念は当然出てくるものであると思う。一方で、設計・施工が一体となることによるメリットもある。こういったことも考慮しながら、該当施設においてどの手法が一番良いか検討していく。 工事については、設計と施工が同一であったとしても、その事業者だけで完結するものではない。市としてしっかりと確認を行いながら事業を進めていくことを想定している。
大村委員	ホールの建設は、音響など専門的な部分が多いと思うが、事業者による差は出てくるのか。
総合政策課長	躯体については大きな違いは出ないかもしれないが、音響設備やデザイン性、その他専門的な部分で、設計事業者による差が非常にしやすいと思う。
井口副座長	資料7における「DB」、「DBO」と「運営者先行選定方式」の違いをもう少し詳細に伺いたい。
総合政策課長	大きく異なる点は、運営事業者をどのタイミングで決定するか、ということである。「DB」であると設計・施工の後に決定し、「DBO」であると設計・施工と同時に決定するのに対し、「運営者先行選定方式」であると設計・施工より先に決定する。事業者ヒアリングの中で、運営を意識した設計・施工が重要であるという声が多かったため、運営者の意見を反映しやすい「運営者先行選定方式」を選択肢の一つとして検討している。
大村委員	入札方式は、低価格入札ではなく、総合的な評価によるプロポーザルになるのか。また、その場合、運営を先に決定するのであれば、中身がまだ固まっていない段階で運営事業者を募ることになるのか。その際の入札基準はあるのか。
総合政策課長	具体はこれから検討するが、プロポーザルでの可能性が高い。価格だけでなく、提案も審査のポイントになってくる。 運営事業者に求める提案の基準は、今後詰めるところである。文化ホールの活用や子育て支援事業の展開など、建物とは別の事業内容が、審査時のポイントになるのではと考えている。

岩塚委員	施設や機能に応じて複数の運営主体が携わることが想定できるが、どのような形となるのか。
総合政策課長	複数の運営主体が、独立してそれぞれの機能を運営する他、複数の運営主体でチームを組むということも考えられる。

服部教授	<p>全体を通して、以下3点コメントする。</p> <p>1点目は、運営を見据えた計画の議論についてである。事業手法として複数の選択肢があるが、いずれも運営を見据えた計画が重要となる。発注段階においても、先を見据えた要求水準、要求事項の設定が必要であり、特に運営事業者を先行して決定する場合は非常に難しいことではあるが、想像力を働かせてさまざまなシミュレーションをして考えていかなければならない。また、複合・多機能施設において、各機能が独立して運営することとなれば、複合施設であるメリットや効果が得られない。共用部分の連携についても、早い段階で検討をすることが重要である。運営を見据えた計画について、前倒しで議論が進んでいくことを期待する。</p> <p>2点目は、民間サービス機能の分策についてである。公共と民間が足並みをそろえて事業を進めることは難しく、公共部分の計画が進んでいく中で民間の意欲や事業ニーズが高まるということがある。自由度を高めるという点でも、分策は一つの選択肢として考えられるが、公共と民間のタイムラグをどう扱うかが非常に重要である。このタイムラグを意識しつつ、民間の意欲を高めるためには、ある程度段階的に整備を進めていくことも考えられる。段階的に整備を進める場合、運営者の発注条件として重要になってくるため、よく検討して欲しい。</p> <p>3点目は、ゾーニングについてである。「にぎわいゾーン」と言っても、商業施設と公園施設では意味合いがかなり異なる。(その他の機能も含め、) それぞれにどのような機能を持たしていくのか、ゾーニングの検討も進める必要がある。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4 その他

総合政策課	(連絡事項)
-------	--------

#### 5 閉会

総合政策課	(閉会のあいさつ)
-------	-----------